**蒸ノ湯**

**露天風呂にも違いがある**

蒸ノ湯の14代目当主である阿部藤助さんは、篤志家でした。八幡平を人気の観光地とするため、彼は八幡平山頂までの登山道を建設した他、周辺地域の整備も行いました。また、藤助さんは1956年の八幡平の国立公園指定において欠かせない役割を果たしました。彼の貢献を讃えて、この国立公園内には彼の名前を冠した藤助森という森があります。

蒸ノ湯の女将である恭子さんは、藤助さんを時代の先端を行った人物だと考えています。「私は、人はよく食べ、温泉に入り、ハイキングに行き、新鮮な空気を吸うべきだと思います。健康の秘訣はそれらすべてを組み合わせることにあります。その全てができる八幡平を作ろうとした藤助は、先駆者でした」と恭子さんは言います。

このホリスティックな考え方は、恭子さんが新たに作った言葉で呼ぶ蒸ノ湯の露天風呂にも反映されています。恭子さんによると、露天風呂と「野天風呂」は別物だそうです。蒸ノ湯の野天風呂は、旅館から200メートルほども離れた谷の真ん中にあり、周囲の山々を360度見渡すことができます。恭子さんの「お風呂のテーマパーク」を作るという野望に則って、これらのお風呂は四角い升風呂や古い味噌樽を使った4つの樽風呂、岩で囲んで床に小石を敷き詰めた岩風呂など、ユニークで多岐にわたっています。

旅館で提供される料理もまた、恭子さんの健康哲学に沿ったものです。添加物は極力使用せず、数々の賞を受賞している八幡平ポークや地元で採れた野菜、山菜など地元の食材にこだわり、配膳スタッフは健康への効果を説明しながら全ての料理をひとつひとつ紹介します。